

損害なくとも受注落ち込み

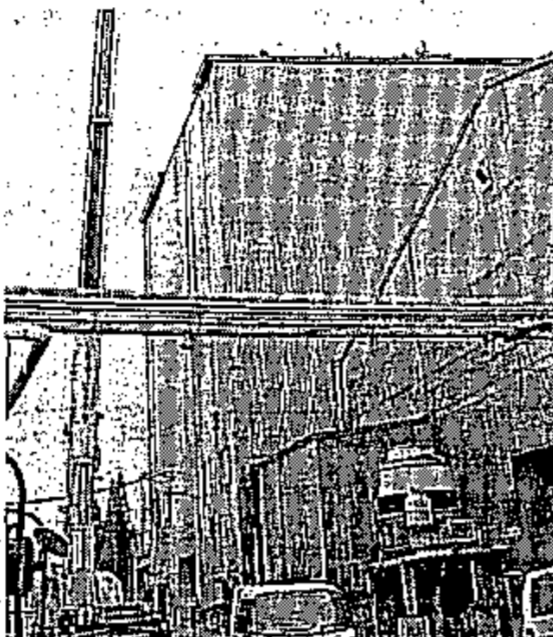
企業 間接被害に懸念

新潟県中越沖地震を受け、県内の企業に間接的な被害への懸念が広がっている。建物や設備に損害がなくとも、被災イメージが広がり、各地からの受注が落ち込む恐れがあるためだ。被災した企業は再開を急ぎ、取引先のつなぎ留めに必死。柏崎市の商店へ商品を供給する企業も、売り上げの落ち込みが避けられずにいる。

取引先に安全訴え

被災企業は操業再開急ぐ

■「長岡は大丈夫」は、会長を務める菅野孝「長岡が安全港」というの連帯組織、長岡産産活ねりをつくりたい。県外性化協議会(NAZE)の会社には各社が「大丈夫が地震後に開いた会社夫です」と伝えよう。温式研削機加工メーカー、マコーの松原孝会長



中越沖地震

リケンが被害が地震の大きさを印象付けた(20日、リケン、柏崎事業所)

震では直接の被害に加え、「長岡は被災地」というわきが独り歩きした。今回も柏崎市や刈羽村と並び、長岡市は震度6強を記録。建物の被害は少なかつたが、うわさへの不安が再び頭をよぎる。すぐに影響がみえる。観光とは異なり「(企業間の取引など)産業には風評はじわじわと響く。これからの勝負」と気を配る。

■「ほかに注文減すな」リケン、柏崎事業所の被災は国内の自動車産業をストップさせ、柏崎市の

被害の甚大さを各地に伝え付けた。「中越もしくは新潟は危険」との意識は広がり、観光にとまらぬない「製造業版の風評被害」(泉田裕彦知事)への心配も広がる。

「ほかに注文減すな」リケン、柏崎事業所の被災は国内の自動車産業をストップさせ、柏崎市の

て顧客を引き留めよう。二十四日には何とか操業にこぎつけた。被災した企業は設備復旧とイメージ拭き(ふき)の双方に追われ、「ウチは大丈夫だ」と言い続け

(長岡市)は、被害の大きかった柏崎市のえんま通りや東本町の商店との取引が多い。商店街の再開はメドが立たず「復旧のペースに追いついていない」と嘆息する。長岡市内の企業への影響の懸念を強めた。佐藤和(営業部長)は「佐藤和」をめぐり取引先には商品を提供的に申し込むと定める。

柏崎市の企業が被災し、商品の販売や金庫加工の一部工程の外注に支障がでている。イメージも悪化する。長岡市内の企業への影響の懸念を強めた。佐藤和(営業部長)は「佐藤和」をめぐり取引先には商品を提供的に申し込むと定める。

操業は十九社、ほかに三十七社が五〇%以上まで回復したと回答した。刈羽村は十四社のうち六社が操業を停止している。県下全域では調査した三百四十七社のうち四十三社が地震の影響をいまだに操業していない。

柏崎 操業停止3割弱 半分以下

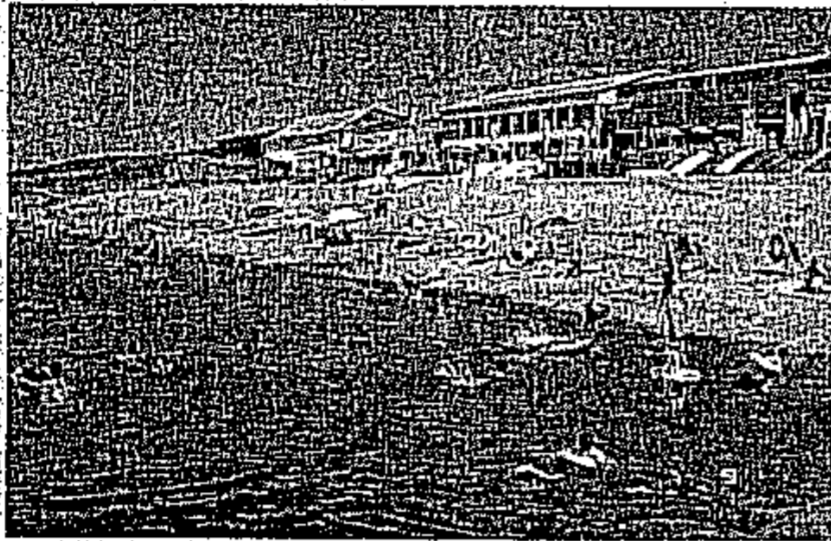
新調県が二十四日朝までまとめた調査では、中越沖地震で大きな被害をうけた柏崎市の企業のうち、七割以上が操業を

再開した。フル操業はまだ二割足らずだが、操業停止は二日前から半分以上に減り、復旧への取り組みが加速している。

調査は十九社、ほかに三十七社が五〇%以上まで回復したと回答した。刈羽村は十四社のうち六社が操業を停止している。県下全域では調査した三百四十七社のうち四十三社が地震の影響をいまだに操業していない。

キャンセル1億7600万円

中越沖地震の風評被害



中越沖地震の風評被害が長引く中、梅雨明けを迎えた海水浴場。にぎわいが一刻も早く戻るよう関係者は願っている＝1日、新潟市関屋の関屋浜

中越沖地震で発生した風評被害が、新潟市内にも広がっている。市の取り組みは宿泊・宴会の取り消

宿泊施設 書きき入れ時直撃 市県と連携安全PR

しは七月三十日現在で約一億七千六百万円。さらに自費ムードの長期化を懸念する声も上がる。また柏崎刈羽原発の放射能漏れで海水浴場は「メシヤン」浜松屋からは噴き節が漏れる。市は三日から始まる新潟県民まつりなど、首都圏の自治体や、凡、県や市連携して安全安心を訴えたいと懸念だ。

中越沖地震で同市内 被害はなかった。ところが、西蒲区で数度弱震が地震直後から宿泊施設 観測したものの、大きなキャンセルが相次いで

だ。市によると七月三十日までに宿泊の予約で六千四百三十三件、約一億七百万円、宴会も七千万円近く上っている。

日本ホテル協会信越支部新潟市ホテル連携協議会幹事の並川明・万代シールバーホテル社長は「キャンセルも影響が大きい。これから予約が見込める納涼会などを自費でやるのは痛い」と先行きを懸念。「新潟は安心な地域。梅雨明け、首都圏を中心とした観光客が戻ってくる。行政に対して要請する。同組合の店には、ホ

テル宿泊客を受け入れる「海水浴バス」を取り扱い、例年は七月末まで百人を超える利用があるが、今回は数人だけ。例年の売り上げの十分の一程度」と懸念を上げている。

の海は大丈夫と伝えたくても、どうすればいいのかが頭を悩ませる。観光施設にも影響が出ている。マリビエ日本海(中央区西船見町)は夏休みに入っても客の入りか悪い。地震後の七月十七日三十一日の入り込み客は前年同期比で四割

減となった。同館は「道端や建物、魚は大丈夫か」という問い合わせが多いう。県内外の観光客が訪れる新潟市や村でも、食料予約のキャンセルが出た。

風評被害を吹き飛ばそうと藤田昭市長は七月三十一日、横浜市役所へ埼玉県庁を訪れ、新潟まつりと夕日リゾートのホステルを配布するなどPR活動をした。二日には新潟県高崎市も訪れる。市観光交流課は「風評被害対策については、関係機関と協力し、顧客を呼び掛けた」としている。